

高 等 学 校

平成 2 5 年度

教育研究員研究報告書

芸術（美術）

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	3
IV	研究の方法	4
V	研究の内容	5
	検証授業Ⅰ	6
	検証授業Ⅱ	12
	検証授業Ⅲ	18
VI	研究の成果	23
VII	今後の課題	24

研 究 主 題	「生徒の自己実現を図る取組を充実させ、思考力・判断力・表現力を育む指導の在り方」
---------	--

I 研究主題設定の理由

1 教師の指導の現状について

高等学校学習指導要領解説芸術編（平成20年3月告示）においては、芸術科の改善の基本方針として、「創造することの楽しさを感じるとともに、思考・判断し、表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること、生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心をもって、生涯にわたり主体的にかかわっていく態度をはぐくむことなどを重視する。」と示されている。

生徒一人一人が美術への興味・関心を高め、芸術と幅広く、かつ、主体的に関わっていくためには、生徒自身が内発的な動機に基づいて、多用な観点から芸術に対して主体的に関わりをもっていくような手立てを講じていくことが必要である。生徒が表現や鑑賞の題材を自分自身のものとして捉え、自由に発想し、よさや美しさを求めて意欲的に学習活動に取り組めるように指導していかなければならない。

これらのことを踏まえて我々平成25年度教育研究員の実践を振り返ると、必ずしも全ての生徒が主体的に学習活動に取り組むことができているとは言えない状況であるという共通認識であった。表現の指導においては、作品を制作することを通して身に付けるべき資質や能力を明確にしているつもりであっても、実際には、教師自身がイメージする「完成した作品の状態」への到達を目指して、完成度や仕上がりを重視した指導を行ってしまっている。また、鑑賞の指導においては、生徒の主体的な鑑賞を促しているつもりであっても、知識を伝達することや、ワークシートへ記入させることに重きをおきすぎており、生徒が自分自身の中に価値を創造できるところまで指導ができていないなどの反省点が挙げられた。また、都内の高等学校芸術（美術）を担当する教員の中には、同様な課題意識をもっている者が多くいるのではないかと考えた。

2 生徒の実態について

美術科の授業は、学習活動において、生徒が「自己を発揮する」「新しいものをつくりだす」「感動する」「価値をつくりだす」「他者に認められる」という機会が多く、喜びや楽しさを感じることができる。しかし、日常の授業の様子から、生徒の中には「作品に自信が持てない」「つくりたいものが無い」「自分で決められない」という状況があり、手法や技法の説明だけを理解し、作業的に制作を進めてしまう者も見られる。

これらの状況の要因として、授業において「自己を発揮する」「自分の表現意図に応じて作品を完成する」「新たな発見をする」「自分にとっての価値をつくりだす」「創造したものが他者に認められる」などの経験を通して、生徒が創造する楽しさや達成感を感じることができておらず、自己実現を図ることができていないことが考えられる。

このように授業の中での美的体験の不足や自己実現の経験の少なさが、美意識や価値観の形成途中の生徒にとって主体的な創造活動や自己実現を図ることができていない要因となっているのではないかと考えた。

生徒の思考力・判断力・表現力を育む学習活動の活性化には、生徒自身が主体的に創造活動に

取り組めるように支援し、「もっとつくりたい」「もっとよくしたい」「もっと味わいたい」という意欲を引き出すことが不可欠である。

これらのことから、美術の目標を達成する中で思考力・判断力・表現力を育成していくには、教師が生徒に美意識や価値観の形成を促す指導を意図的・計画的に行うことにより、生徒の自己実現を図る取組を充実させることが重要であると考えた。

以上のことから、本部会では「生徒の自己実現を図る取組を充実させ、思考力・判断力・表現力を育む指導の在り方」を研究主題とした。

Ⅱ 研究の視点

平成25年度の高等学校芸術（美術）部会の研究員は3名であるが、一人は選択科目が数多く設定されている総合高校において「ビジュアルデザイン」の授業を担当しており、二人は進学指導特別推進校及び基礎基本の定着を図るエンカレッジ・スクールに勤務し、「美術」を担当している。内容の異なる授業を担当している3名ではあるが、研究主題の内容は、共通して必要な視点であることから、それぞれの授業において研究主題に迫る取組を行うこととした。

1 生徒が自己実現を図ることができるための手立てについて

Iにおいて述べた研究主題の具現化を図るために、研究の仮説を立て、仮説の立証へ向けた検証授業を行うこととした。授業の中では、生徒が創造する楽しさや達成感を感じ、味わうことができる授業を目指して、自己の美意識や価値観の形成を促すために、① 資質や能力の育成を重視した題材の設定、② 授業の導入での題材との出会わせ方、③ 動機付けの方法の工夫、④ 新しい気づき につながる助言を意図的に行うこととした。

生徒が自己実現を図るためには、教師が生徒に美意識や価値観の形成を促すこと大切であると考え、その具体的な取組を右図のように、3点設定した。さらに、その取組を具体化する手立てとして、授業における3つの工夫を掲げ、それによる生徒への効果を考えた。

2 高等学校部会の共通テーマについて

平成25年度教育研究員高等学校部会の共通テーマは、「思考力・判断力・表現力等を育む学習活動を活性化させる学習評価の在り方」である。

国立教育政策研究所による評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校共通教科）の第1編総説においては、「高等学校においても、学校教育法や新しい学習指導要領を踏まえ、基礎的・基本的な知識・技能に加え、思考力・判断力・表現力等主体的に学習に取り組む態度に関する観点についても評価を行うなど、観点別学習状況の評価の実施を推進し、きめの細かい学習指導と生徒一人一人の学習の確実な定着を図っていく必要がある。」と示されている。

美術における観点別評価を効果的に行うためには、題材を通して育成する資質や能力は何かということを明確にすることが大切である。

本研究では、各検証授業におけるねらいを明確にし、各題材で育成する資質や能力を明確にした上で、その実現状況を見取るための評価規準の適切な設定や、評価場面、評価方法などの評価計画を行うこととした。

Ⅲ 研究の仮説

本部会では、研究主題に基づき、以下のように研究の仮説を設定した。

【研究の仮説】

教師が美意識や価値観の形成を促す指導を意図的・計画的に行うことにより、生徒が自己の表現に自信をもち、自己実現を図ることができる。

また、研究の仮説の立証へ向けて、現状と課題解決のための具体的な手立てとして、以下のよう
に方策を考え、授業実践により検証することとした。

【現状と課題】

教師の指導の現状

- ・作品の仕上がりや完成度を重視しすぎた表現の指導の課題
- ・知識の伝達やワークシートの記入を重視しすぎた鑑賞の指導の課題
- ・学習評価に関する課題

生徒の現状

- ・美的体験の不足
- ・自己実現の経験が少ない
- ・美意識・価値観の形成途中

【美意識や価値観の形成を促す取組】

- ・他者との考えの違いを意識し、肯定的に捉える指導を通して美意識や価値観の形成を促す。
- ・自己を見つめ、自分の発想を基に主題を生成することによって、美意識や価値観の形成を促す。
- ・生徒が作品の鑑賞を通して、自分なりの見方や感じ方を大切にするを通して、美意識や価値観の形成を促す。

【題材における具体的な3つの工夫】

- 1 生徒が学ぶべきことを理解できる工夫
- 2 生徒が自らやりたいと思うことを見つけることができる工夫
- 3 生徒が自らのやりたいことを実現できるための工夫

【育成する資質や能力を明確にした観点別学習評価の適正な実施】

【3つの工夫による生徒への効果】

生徒の美意識・価値意識を高めることができる



生徒が自分の表現に自信をもつことができる



生徒の自己実現を図ることができる

Ⅳ 研究の方法

研究主題に即して、授業の具体的な学習指導について実践的研究を行った。

1 文献研究

国立教育政策研究所による「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 芸術）」を参考にして、適正な学習評価や観点別評価について検討した。

学習指導案作成に当たり、題材で育成する資質や能力を明確にした上で、指導と評価の一体化、学習評価の妥当性、信頼性を高めるよう、評価を分析し、評価規準の設定と評価方法について検討し、学習指導案に示し、評価を実施した。

2 検証授業による実践

教育研究員月例会等を通じて研究主題に迫るための授業を検討し、検証授業を行い、「教師が意図的に美意識や価値観の形成を促すことにより、生徒が自己の表現に自信を持ち、自己実現を図ることができる。」という仮説の検証を行った。

まず、教師が生徒に美意識や価値観の形成を促すこと大切であると考え、その具体的な取組を以下の３点として設定した。

- ・他者との考えの違いを意識し、肯定的に捉える指導を通して美意識や価値観の形成を促す。
- ・自己を見つめ、自分の発想を基に主題を生成することによって、美意識や価値観の形成を促す。
- ・生徒が作品の鑑賞を通して、自分なりの見方や感じ方を大切にすることを通して、美意識や価値観の形成を促す。

また、その取組を具体化する「題材における３つの具体的な工夫」として、以下の３点として設定した。

- ① 生徒が学ぶべきことを理解できる工夫
- ② 生徒が自らやりたいと思うことを見つけることができる工夫
- ③ 生徒が自らやりたいことを実現できるための工夫

これら３点を学習指導案の中に位置付け、実践を行い、検証した。

V 研究の内容

研究構想図

全体テーマ

『学習指導要領に対応した授業の在り方』

高校部会テーマ『思考力・判断力・表現力等を育む学習活動を活性化させる学習評価の在り方』

思考力・判断力・表現力等を育む学習活動の現状

教師は、主体的に学習活動に取り組ませることができず、造形的な創造活動の基礎的な能力を育てることができていない。そのため、生徒は授業において、自己実現を図ることができず、創造する楽しさや達成感を感じる事が難しい状況である。

学習活動の取組に対する学習評価の現状

評定のための評価になってしまう傾向があり、必ずしも、思考力・判断力・表現力等主体的に学習に取り組む態度に関する観点についても評価ができていない。また、評価を授業改善に役立てることができていない。

現状から見えてきた課題

教師が生徒に美意識や価値観の形成を促す指導を意図的・計画的に行うことにより、生徒の自己実現を図る取組を充実させることや、題材で育成する資質や能力を明確にした評価の実施が重要である。

高等学校芸術(美術)部会主題

生徒の自己実現を図る取組を充実させ、思考力・判断力・表現力を育む指導の在り方

仮 説

教師が美意識や価値観の形成を促すことにより、生徒が自己の表現に自信をもち、自己実現を図ることができる。

具体的方策

美意識や価値観の形成を促す取組

- ・ 他者との考えの違いを意識させ、肯定的に捉える指導を通して美意識や価値観の形成を促す。
- ・ 自己を見つめ、自分の発想をもとに主題を生成することによって、美意識や価値観の形成を促す。
- ・ 作品の鑑賞を通して、自分なりの見方や感じ方で理解し、美意識や価値観の形成を促す。

具体的な手立てとして以下の3点を学習指導案に位置付けて、検証する。

- 1 生徒が学ぶべきことを理解できる工夫
- 2 生徒が自らやりたいと思うことを見つけることができる工夫
- 3 生徒が自らのやりたいことを実現できるための工夫

評価・検証 検証授業による生徒の変容の確認

検証授業Ⅰ

科目名	芸術（美術Ⅰ）	学年	1年
-----	---------	----	----

1 題材名

「思いを伝えるモデリング」 A表現（1） B鑑賞（ア）

2 題材の指導目標

鑑賞を通して作品のよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り理解する。
抽象的な概念を理解した上で、自己の内面を見つめ作品の構想を練り、主体的に主題を生成する。

3 本題材と研究主題との関連について

本題材では、研究主題に迫る具体的な三つの手立てとして以下のように取り組んだ。

（1）生徒が学ぶべきことを理解できる工夫

抽象彫刻をスケッチし、ワークシートにその彫刻から感じ取ることのできる感情を記入することにより、感情を形にすることについて理解できるように工夫した。

（2）生徒が自らやりたいと思うことを見つけることができる工夫

20世紀の彫刻を鑑賞し、彫刻に興味を持たせることによって、制作意欲を高めた。

（3）生徒が自らのやりたいことを実現できるための工夫

ワークシートを使ってアイデアスケッチと共に完成予想図を描き、具体的な制作計画を立て、見通しをもって制作を行う。

4 評価規準

	ア 美術への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	①感じとったこと、考えたことから主体的に主題を生成し、抽象的な概念を理解し、創意工夫をして構想を練ろうとしている。 ②作品のよさや、作者の心情や表現の意図、表現の工夫などを感じ取り、それらの特徴を分析するなどして、作品に対する見方や感じ方、考えなどをもち、理解しようとしている。	①自己の内面を見つめて、感じたこと、想像したことを「形」にするにすための発想・構想ができる。	①紙粘土・ヤスリ・ヘラ、ニスなどを使い、より効果的な表現方法を選択、活用するなど創意工夫をし、主題を追及して表現している。	①彫刻家や友達の作品のよさや、作者の心情や表現の意図、表現の工夫などを感じ取り、それらの特徴を分析するなどして、作品に対する見方や感じ方、考えなどをもち理解することができている。

5 題材の指導と評価の計画（8時間扱い）

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
第1時	・20世紀の彫刻家4人について鑑賞をする。 鑑賞 WS 別紙① ・抽象彫刻を鑑賞し、どのような感情を思い浮かべるかを記入する。 鑑賞 WS 別紙① ・鑑賞で学んだことを生かし、感情を言葉にし、作品の発想・構想を練る。 鑑賞 WS 別紙②	・美術作品などのよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫を理解しているかを、生徒の発言から確認する。 ・鑑賞と同時にワークシートを記入するよう指導する。 ・作品からイメージしたことを膨らませて想像したことを生かし、表現できるように指導する。 ・紙粘土の特性と効果を考え、創造的な表現の構想を練ることができるように指導する。	ア② エ① ア① イ①
第2時	・紙粘土で「思いの形」を制作する。	・紙粘土の特性を生かして、意図に応じた表現ができるように指導する。 ・ヘラなどを使い、より効果的な表現方法を選択し、活用するなど創意工夫ができるように指導する。	イ① ウ①
第3時	・紙やすりや彫刻刀で形を整える。 ・自分の作品と友達のを鑑賞しワークシート記入する。鑑賞 WS 別紙③	・彫刻刀や紙やすりなどを使いより効果的な表現方法を選択、活用するなど創意工夫ができるように指導する。 ・紙やすりや彫刻刀でけがをしないように注意をする。 ・自らの作品の感想を記入する。友達の作品のよさや、作者の心情・意図と表現の工夫などを感じ取れるように指導する。	ウ① エ①

6 成果と課題

(1) 鑑賞について

題材の終了時に導入で行ったアンケートでは、「彫刻に興味を持つことができたか」の問いに対して、86人中85人が「できた。」と回答している。鑑賞の活動を通して、作品の美しさを感じ、作者の心情や表現の意図、表現の工夫などに理解を深めることができた。

(2) 表現について

自分の見方や感じ方を大切にする鑑賞の活動を表現の活動の前に行うことによって、生徒は自身の美意識・価値観をもつことができ、自信を持って「感情を形にする」ワークシートに取り組み、主体的に作品制作に取り組むことができた。

抽象彫刻の鑑賞を通して学んだことを生かして感情を形にするためのアイディアスケッチを行ったため、感情のイメージを形にすることが理解できない生徒が少なく感じた。

生徒からは、「怒りの感情は『カッ』っと、急に湧き上がってくるから、もっと単純化したほうがいいですか。」という質問や、『『悩む』はグチャグチャしている感じだから、こんなに複雑になってしまったのですが、作れますか?』など、抽象の概念を理解したうえでの質問が多いように感じられた。

(3) 自己実現を図ることについて

抽象的な作品に自信をもって取り組むことができなかった生徒が、具体的な手立て3点を行うことによって自分の感情と向かい合い、自分の発想をもとに主題を生成することができた。そのことによって自己実現を図ることができた。しかし、作品制作に興味を持つも自分の感情をもとに発想し主題を生成するのが難しい生徒が数名いた。その結果、自分の表現に自信を持つことができず、自己実現を図ることができなかった。

鑑賞の感想の抜粋

- ・ 20世紀の彫刻は何も知らないゼロの状態で見賞できるので、自分の思ったことを何も縛られずに感じることで楽しいと思った。また、抽象的なものが多いので想像が広がった。
- ・ 抽象的な作品が多いかなと思っていただけど、説明や題名がわかれば、納得できる作品だったのでもっと、学びたいなと思いました。実際に美術館に行ってみよう！！
- ・ 20世紀の彫刻はその時の時代背景に左右されやすく、作者の訴えや思想が深く関係していると思う。自分で見て、自分で考えるのも大切だと思う。
- ・ 単に「本物を見てみたい」と言うような作品だけでなく、難しいといえど難しい作品が多かった。イメージを表現していると考えた上で見ると、また見方が変わったので機会があればよく見てみようと思う。美術作品と現実の出来事が繋がっているのは意外だった。
- ・ イメージでその物の本質を表現するのは、色々な感じ方ができて面白いと感じた。彫刻の中から感情や思いが伝わってきて彫刻に興味が出た。
- ・ 戦争前の作品には希望や人間らしさが感じられたけど、戦争後の作品からは恐怖や苦しみを感じた。芸術家が身を削って作った作品だから、そのリアルな生々しさが出ているのだと思う。

(4) 育成する資質や能力を明確にしたワークシートの作成と評価について

本題材では、以下のようにワークシートを作成して活用した。各欄に生徒が記入することにより、どのような資質や能力を発揮させていくことをねらいとしたかは以下のとおりである。

鑑賞ワークシート（別紙①）

鑑賞をしよう！！

年 組 氏 名

☆抽象彫刻を鑑賞・スケッチし、思い浮かぶ感情を記入しましょう。・

①

②

③

感情

感情

感情

○最初に4つの作品を表示します。第一印象で記入してください。

No.	好きですか？	YES	NO	第一印象を書こう！！
①				
②				
③				
④				

ロダン
「考える人」

ブランクーシ
「空間の中の鳥」

作者 題名 年代

鑑賞のヒント・生きた方について

②

モディリアーニ
「おさげ髪の少女」

ブランクーシ
「立つ女」

作者 題名 年代

鑑賞のヒント・生きた方について

②

もう一度見てみたい、本物を見てみたいと感じる作品はありますか？

題名 理由

彫刻に興味を持つことができたか？ YES NO

③

20世紀前半～後半について、歴史的背景も含めた感想

④

- ① 抽象彫刻を鑑賞・スケッチし、思い浮かぶ感情を記入しましょう。・第一印象で記入してください。
→ 作品をよく見て、抽象彫刻を鑑賞するきっかけを与える。
- ② 作者・題名・年代・生き方等
→ 各作品のよさや美しさを感じ取る、作者の心情や表現の意図、表現の工夫などを深く味わうことができるようにする。
- ③ もう一度みてみたいと思う作品や本物を見てみたいと感じる作品
- ④ 20世紀前半から後半の歴史的背景も含めた感想
→ 作者の心情・意図と表現の工夫などを感じ取り、それらの特徴を分析するなどして、作品に対する見方や感じ方、考えなどをもつことができるようにする。

表現ワークシート（別紙②）

気持ちを表現しよう！！

普段の生活の中で、色々な気持ちを感じ、考え、様々な感情を持ちながら日々を送っていると思います。..

感情は言葉で表すと嬉しい、楽しいなど1つの言葉に収まりますが、同じ、楽しいであっても1人1人違う形の「楽しい」があります。今日の授業ではみんなの心にある感情について考え、形にして表現してみましょう。..

喜

怒

哀

楽

①

エピソード

②

..

..

..

③

特徴・説明

④

※ 星やハート、ダイヤなどマークが意味を持つものは使ってはいけません。

- ① 抽象彫刻の鑑賞を通して、感じとったこと、考えたことから主体的に主題を生成し、「感情を」「形」にすることを促す。
- ②・③選択した感情を具体的なエピソードにすることにより、自分の表現意図や表現方法を具体的に考える手掛かりとする。
- ④ 抽象的な概念を理解し、創意工夫をして構想を練ることができるようにする。



生徒作品

表現ワークシート（別紙②）

1年 美術鑑賞プリント 自己分析シート		
1年 組 番 氏名		
1、自分の作品の題名を書きましょう。また、その理由も記入しましょう。 題名 _____ その理由は _____ _____ _____	感想を書きましょう。 _____ _____ _____ _____	
2、作品制作の過程で工夫した部分を書きましょう。 工夫した部分は _____ _____ _____ _____	感想を書きましょう。 _____ _____ _____ _____	
3、自らの作品をスケッチし、自己の感情を表現した感想を書きましょう。 _____ _____ _____ _____ _____ _____	感想を書きましょう。 _____ _____ _____ _____ _____	
・意欲的に作品制作に取り組むことができましたか ・発想や構想をしっかりと練ることができましたか ・創意工夫をして、主題を追求できましたか YES NO YES NO YES NO		

自他の作品を鑑賞し、作者の心情・意図と表現の工夫などを感じ取り、それらの特徴を分析するなどして、作品に対する見方や感じ方、考えなどをもつことができるようにする。

これらのワークシート及び作品から、学習指導案に示した各時期において、生徒が思考し、判断し、表現している過程を見取り、評価を行った。

[illegible]

検証授業Ⅱ

科目名	芸術（美術Ⅰ）	学年	1年
-----	---------	----	----

1 題材名

「私のお店の包み紙」 A表現（2）デザイン B鑑賞 ア ウ

2 題材の指導目標

包装紙をデザインする学習活動を通して、目的や機能、美しさを考えて自ら主題を生成し、創造的に表現する力や、他者の作品を理解する鑑賞の力を身に付ける。

3 本題材と研究主題との関連について

本題材では、研究主題に迫る具体的な三つの手立てとして以下のように取り組んだ。

（1）生徒が学ぶべきことを理解できる工夫

伝統的な日本の模様や包装紙の多様なデザインをスライドや図示などで鑑賞し、形の特徴や発想の原点を学ぶことを通して、自然の造形を図案化、簡略化する方法を理解する。

（2）生徒が自らやりたいと思うことを見つけることができる工夫

① 包装紙を使う目的や条件、取り扱うお店などの場面設定、イメージカラーなど、自らの発想を基にして主題を生成し包装紙のデザインを構築していくことができるようなワークシートや、視覚的な教材を工夫した。

② 自己の作品の有用性や実用性を実感できるよう、用途や目的を考え、デザインを試行錯誤できる指導を工夫し、表現意欲を高めた。

（3）生徒が自らのやりたいことを実現できるための工夫

デザインした形の型紙を作ることで繰り返し（リピテーション）の技法を用いた包装紙を完成し、失敗を恐れず成功体験を味わえる手法によって自己実現を図った。

4 評価規準

	ア 美術への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	① 目的や条件を考えて装飾することや視覚的な美しさを創意工夫するデザインの表現に興味・関心を持っている。 ② 感性をはたらかせ、目的・機能・美しさなどの調和を考えて自	① 感性や創造力をはたらかせて目的や条件、機能、造形的な美しさを考え、自分なりの主題を生成しようとしている。 ② 設定した主題を効果的に表現するために、ステンシルの表現	① ステンシルの技法やアクリル絵の具の特性、スポンジや筆を使った表現の効果を理解し、目的や意図に応じて表現に活用している。 ② 表現の目的や意図に基づいて、配色や構成を工夫している。	① 他の生徒の作品のよさや美しさ、作者の心情や意図を感じ取り、作品に対する自分の考えや価値意識をもち、理解しようとしている。 ② 生活や社会を心豊かにする美術の役割や意義を自分なりに

ら表現の主題を生成し、計画的に表現しようとしている。 ③他者の作品のよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などに興味・関心をもち学ぼうとしている。	形式の特性を生かして、形体、色彩、構成などを工夫して創造的な表現の構想を練っている。	③計画を吟味し、体験的に理解しながら表現を創意工夫しようとしている。	捉え、積極的・主体的に意味や価値をつくりだそうとしている。 ③自然の造形美から生み出されたデザインを理解しようとしている。
---	---	---	---

5 題材の指導と評価の計画（8時間扱い）

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
第1時	- 日本で創造され伝統的に使われている模様やデザインを学ぶ。 鑑賞 WS 別紙① - ステンシルや型染めの技法を理解する。	- 伝統的な日本の模様を鑑賞する。自然の造形が美術のデザインに生かされていることを理解し、表現上の工夫を見つけられるよう発問する。 - 写真や画像を見て意見・感想を述べる。自然の造形を図案化・簡略化する方法を理解できるように説明する。 - 伝統的な模様が生活のデザインに生かされていることが分るようにする。	ア①③（観察） エ②（ワークシート）
第2時	主題を生成し、包装紙のデザインの構想を練る。 表現 WS	- 自ら主題を生成できるよう個々に指導する。 - どのような場面で、何を包むための包装紙にするか、発想や構想を膨らませるための資料や材料を提示する。 - 主題を表現するために効果的なデザインを生み出せるように指導する。	ア①（観察・ワークシート） イ①・ウ②（ワークシート）

第3・4時	- 考えた包装紙のデザイン（原画）の型紙をつくる。 - 型紙の型を切り抜く。	- 使用する色の数だけ型紙が必要であることを理解し、原画をトレーシングペーパーで写し取るよう指導する。 1色毎に、形を画用紙に転写し、全て合わさった時にズレがないか確認する。 - 下書きした「型」のアウトラインをカッターで切り抜き、1色ごとの型紙を完成させる。	ア①②（観察・ワークシート） イ②・ウ①（作品・ワークシート）
第5・6時	型染め	試作として、1枚ステンシルの方法で着色し、色や形の確認をする。本制作として、B4サイズの紙に形がリピテーションするように1色ずつ着色していく。	ア①（観察） イ②（観察・作品） ウ①②（作品）
第7・8時	- 作品の仕上げ - 相互鑑賞 - 相互批評	1枚の包装紙が完成できるように、丁寧な着色を心がけるよう指導する。 - 完成した作品を提出し、黒板や掲示板上に掲示し相互に鑑賞できるようにする。	ア①③（観察） ウ②（作品） エ③（観察・ワークシート）

6 成果と課題

（1）鑑賞について

日本には伝統的に使われている模様がいくつもあり、それらのデザインはわれわれの衣食住に根付いて繰り返し使われているものが多い。今回の授業の導入時には八つの模様を取り上げ、画像を見て生徒が意見を述べながら日本の模様について学習した。取り上げた模様は①うろこ模様、②亀甲模様、③竈目模様、④菱模様、⑤五崩し（三崩し）、⑥市松模様、⑦青海波、⑧波千鳥である。

これらの模様は、商業や伝統産業においてデザインとして多用されており、本題材の「包装紙」にも実際に使用されているものもある。生徒たちにとってこれらの模様は「見た事はある」ものの、「何の形からイメージしてデザインされたものか」「何という名前なのか」という観点では初めて学ぶ生徒が多かったようである。しかし、導入時に連続して8種類の模様を鑑賞する学習活動は、量が多いと感じる生徒も中にはいた。改善策として、毎時の導入時にいくつか鑑賞し段階的に学んでいくという学習方法をとることもできたと考えられる。

鑑賞の際は生徒から多くの発言や意見が出てきており活発な鑑賞にはなったが、前述した鑑賞材料の多さが授業進行上における生徒の関心の持続にあだとなってしまう可能性が否めないため、時間配分や内容量の精査は、よく吟味して実施すべきであると反省している。

鑑賞ワークシートからは、友達の意見を聞く事や、自分の考えで記入する態度、更にはよく観察して書き込もうとする態度をうかがい知ることができた。ワークシートは空白を多くとり、

文字だけでなくスケッチもできるように設定した。そうすることで、鑑賞の際、イラストやスケッチを加えながら取り組み、題材に対する興味・関心の高まりを促すことができた。ワークシートに設ける「課題」は、たとえ書き込むことに一所懸命になったとしても、その学習が思考力の向上や判断力の正確さが高まる活動につながる必要があると考えられる。ワークシートの中で取り組む「課題」が、学習目標を達成するためのきっかけや手立てとなるように教師は工夫していかなければならないと感じた。

(2) 表現について

表現の活動においては、授業の最初に実際に使用されている包装紙を見て、ある一つの形が繰り返し使用されてデザインされていることを理解できるよう指導した。ワークシート内に、自分のお店を想定して、お店で使う包装紙としてどのようなデザインにするか、主題を生成し個性的なデザインを創造していけるように指導した。

しかし、発想の場面でつまづくケースもあり、題材に取り組む前から「表現したいものがない」「何でもよい」と考えている生徒は、主題の生成を非常に難しいと捉え、作りたいものを見つけれられる指導の工夫はより一層の改善を求められる。できるだけ対話を通して、いくつかのパターンや例を図示し、自分の考えに基づいて考案できるようにした。表現のワークシートでは、いくつかの項目を示してそれらの課題に取り組むことにより、多様な切り口から表現したいもの、作りたいものを見つけれられるように工夫することで主題を生成していくことができるようになった。本題材は、お店を想定し客に使ってもらおうという場面設定を設けたことで、自分がデザインした包装紙が人に使ってもらえるという意識や、社会や他者とのつながりがデザインを通して生まれるという意識を生徒の中に芽生えさせることができる題材となった。

また、自分の考えを表現するという点では、特に自己の価値観を大切に表現活動に取り組み、よりよい作品になるよう試行錯誤する姿勢を身に付けることができた。

(3) 自己実現を図ることについて

本題材は失敗しても型紙を繰り返し使うことで、何度も挑戦できる題材である。そのため、最終的には1枚の作品が仕上がり、作品を完成させる力が身に付く。美術の表現では「最後まで完成できた」「自分にも表現できた」という経験や達成感は、自己実現を図る上で非常に重要な経験になる。本題材では、ステンシルの技法を用いたため、考えたデザインを色ごとに分解し型紙をつくる学習課題は、使用する色数や形態によって全体像が変わってくる。一つの絵であっても、型紙が複数必要なデザインや単色のために型紙が1～2枚であるデザインなど、自分が考えたデザインをいかにして型紙におこしていくか、生徒が判断し、思考力を培う場面が多くみられた。本題材を通して生徒たちは成功体験を味わい、表現と鑑賞の学習に取り組むことで生徒の美意識や価値観の形成を促し、自己実現を図る題材として効果的に学習指導をすることができた。

(4) 育成する資質や能力を明確にしたワークシートの作成と評価について

本題材では、以下のようにワークシートを作成して活用した。各欄に生徒が記入することにより、どのような資質や能力を発揮させていくことをねらいとしたかは、次ページ以降のとおりである。

鑑賞ワークシート（別紙①）

① 模様の図

スライドと照らし合わせて鑑賞するための図。

② 形の特徴

図を見て、第一印象から感じた形の特徴を、文字やスケッチなどで記入することにより、模様の形や特徴を自分なりに捉える。

③発想の原点・④模様の名前

模様が形として発想された原点について、解説を聞いて記入し、理解を深める。

美術Ⅰ 鑑賞ワークシート			
年 組 番 氏名 ()			
何の模様かな？—— 形の特徴・発想の原点・模様の名前を記入する。			
模様	形の特徴	発想の原点	模様の名前

①
②
③
④

表現ワークシート（別紙②）

美術Ⅰ 私のお店の包み紙		⑤ 包装紙の企画書	
年 組 番 氏名 _____		包み紙として使える包装紙をデザインします。実際につくる大きさはこの紙の大きさ(B4)です。	
① どのようなお店にしますか？ 例：お花屋さん、お惣菜屋さん、スポーツ用品店等		(1) お店のイメージに合うデザインや、お客さんに喜んでもらえるようなデザインを考えよう。 	
② お店の名前 ポイント 何のお店かイメージしやすい名前にしよう。		(2) 包装紙のデザインをアイディアスケッチしてみよう。 	
③ お店のコンセプト 社訓(笑顔で挨拶、信頼第一など)や販売物など			
④ 包装紙で何を包みますか？			
⑤ お店のロゴマークを考えよう		お店のイメージカラーを決めよう。 お店にピッタリ合う色は何色？	

- ① どのようなお店にしますか？・② お店の名前・③ お店のコンセプト

自分が表現したい具体的なお店を想定し、自分なりの考えを膨らませることを促す。

- ④ 包装紙で何を包みますか？

実際に使用する場面を想定し、包装紙のデザインを考えることができるようにする。

- ⑤ お店のロゴマークを考えよう・イメージカラーを決めよう

包装紙の全体像、店のマークと合う模様など、発想を巡らせて主題を生成できるようにする。

- ⑥ 包装紙の企画書

他者にも喜んで使ってもらえるデザインの工夫など、包装紙の全体像をイメージし、他者にも伝わるように形体や色彩を創意工夫してアイディア・スケッチをする。

これらのワークシート及び作品から、学習指導案に示した各時期において、生徒が思考し、判断し、表現している過程を見取り、評価を行った。

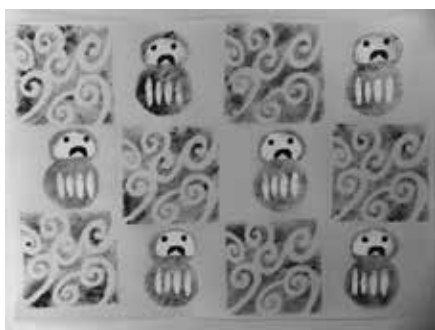


図1 生徒作品

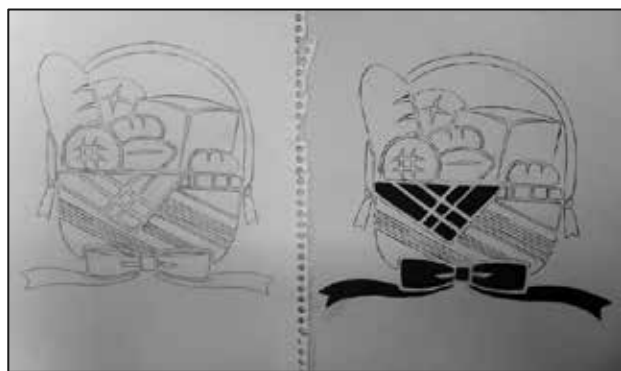


図2 生徒作品（ステンシルの型紙）



図3 生徒作品



図4 作業の様子

検証授業Ⅲ

科目名	ビジュアルデザインⅠ	学年	第2学年
-----	------------	----	------

1 題材名

「ショッピングバッグのデザイン」 (2) 平面・立体デザイン (5) 鑑賞

2 題材の指導目標

ショッピングバッグの特性、グラフィック面の働きを考え、コンセプトを基に表現する。

作品のプレゼンテーションを通して鑑賞の能力を高める。また、生活や社会の中でのデザインの働きについて考える。

3 本題材と研究主題との関連について

私が担当している授業の科目「ビジュアルデザイン」とは、主として専門学科において開設される教科としての美術科の中に編成される科目であり、美術を専門に学ぶ生徒のために必要な選択科目である。

この科目では、ビジュアルデザインに関する学習を通して、デザインの視覚的効果や伝達機能について理解を深め、生活や社会に生きて働く視覚伝達デザインの表現と鑑賞の能力を高めることをねらいとしている。芸術科の中の「美術Ⅰ」とは異なる科目であるが、本研究の主題に関して目指すところは同じである。

本題材では、研究主題に迫る具体的な三つの手立てとして以下のように取り組んだ。

(1) 生徒が学ぶべきことを理解できる工夫

デザインとコンセプトの関連性を意識できるように導入において実際に使用されているものや、身近にあるものから視覚的効果やその表現の工夫を気付けるように鑑賞を行う。

グループワークを行うことで生徒が自分の考えと他者の考えの違いを意識し、同じ素材からでも人によって感じることや考えることが違うということや、違うからこそ美術の面白さがあることを理解させる。

(2) 生徒が自らやりたいと思うことを見つけることができる工夫

街にあるデザインに気付きを促し、発想力を高め表現のイメージを具体化させ制作につなげる。また、ワークシートを利用して考え方の道筋を立てたり、発想のきっかけとなるロゴタイプを提示したりして生徒の思考を促すことで、自らやりたいと思うことを見つけることに専念させる。

(3) 生徒が自らのやりたいことを実現できるための工夫

グループワークなどの意見交流を通して、他者と自分は違うということを肯定的に捉えることで、自分の考えを大切にすることができ、自己実現を図りやすくなる。

プレゼンテーションを行う際、鑑賞の視点としてデザインとコンセプトの関連性を見るように示し、より客観的に鑑賞できるように指導する。

4 評価規準

	ア 美術への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
題材の 評価 規準	① ショップバッグの目的、機能、美しさなどを考えて表現することに関心をもち、主体的に主題を生成し、形や色彩などの造形要素の働きを考えながら創意工夫して構想を練ろうとしている。 ② デザインのよさや美しさ、作者の意図と表現の工夫を感じ取り、その特徴を捉えて分析するなどして、デザインに対する見方や感じ方、考えなどをもち、理解しようとしている。 ③ 生活の中にある造形的なよさや美しさなどに関心をもち、生活や社会を心豊かにするデザインの働きについて考え、理解しようとしている。	① ショップバッグのデザインの目的や条件、機能や用途と、造形的な美しさとの調和を考え主題を生成している。 ② 主題を基に、素材や表現形式の特性と、形や色彩、質感などの造形要素の働きを考え、創造的な表現の構想を練っている。	① 効果的な表現方法を創意工夫し、目的や意図に基づいて、計画や手順を吟味し、制作の見通しをもって表現している。 ② 技法や材料、用具の特性を理解し、目的や意図、特性や効果を生かしてショップバッグを表現している。	① デザインのよさや美しさ、作者の意図と表現の工夫を感じ取り、その特徴を捉えて分析するなどして、デザインに対する見方や感じ方、考えなどをもち、理解している。 ② 生活の中にある造形的なよさや美しさなどを感じ取り、生活や社会を明るく心豊かにし、向上させる上でデザインが持つ意義や働きを理解している。

5 題材の指導と評価の計画（8時間扱い）

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
第1・2時	- 題材の目標を把握し制作の見通しをもつ。 - 提示されたロゴタイプからお店を想像する。 - グループワークを行い他の生徒の考えを知る。 - 気に入ったロゴタイプを選び発想を膨らませて店舗の設定を考える。	- 題材の目標を示し見通しをもたせる。 - どの作業をいつまでに行うか考えさせる。 - 実際に使用されているショップバッグを鑑賞させ、発想の幅を広げる。 - 難しく考え過ぎないように声掛けを行う。 - お互いの考えを述べ合う中で、それぞれの感じ方や考え方の違いを意識させ、その違いを楽しむ視点をもたせる。 - グループワークで聞いた意見を参考に、考えを変えてもいいことを伝える。 - コンセプトに結び付けるためにざっくりとしたイメージではなく、どんな人にどんな商品を販売しているのか明確に設定させる。	ア①②③ (観察・発言・ワークシート)

第3・4時	- 設定を基にショップバッグの形状、コンセプトを考え、ショップバッグのデザインを考える。 - エスキースを描きデザインを決定する。 - デザインしたものをパネル上で効果的に見せるレイアウトを考える。	- バッグとしての機能に重点を置かないように声掛けを行う。 - なぜこのデザインにしたのかということを人に説明できるように考えさせる。 - エスキースを描いていく中でコンセプトとずれてきた場合、作品が気に入っていればコンセプトを修正させる。何がしたかったのか分からなくなっているときはコンセプトに立ち戻らせる。 - レイアウトのパターンをいくつか板書してデザインとの関係を解説する。	ア① (観察・ワークシート) イ①② (個別指導・ワークシート・エスキース)
第5・6時	- 材料の特性を考えながら制作を進める。 - 作品を離れて見るなどして現状を確認しながら完成度を上げる。	- 下書きと絵の具仕事の工程、絵具と水の量、作業環境など適宜声掛けを行う。 - 作業が進まない生徒には何で困っているのかを聞きだし、支援を行う。	ア①②③ (観察・作品) ウ①② (観察・作品)
第7・8時(本時)	- 制作を振り返る。 - 全員の作品を鑑賞する。 - プレゼンテーションの内容をまとめながら、デザインのアピールポイントを考える。 - プレゼンテーションを行い自分の考えを発表する。 - 作品と発表に対しての感想をまとめる。 - 感想シートを交換し、他者の感想から自分の作品のよさや価値について理解する。 - 他者の気付きから自分が気付かない点を知る。 - 制作を振り返り改善方法を考える。 - デザインの働きについて考える。 - 視覚伝達について理解を深める。	- 作品に対する自分の考えをまとめせる。 - 自由に作品を鑑賞させ自然に意見交換ができるように声掛けをする。 - 各項目を記入させ作品との矛盾がないかを確認させる。 - プレゼンテーションの伝わりづらいつ点について適宜補足や確認を行う。 - 鑑賞の視点を示し、客観的に鑑賞できるように指導する。 - 感想を書くときは一言で終わらせるのではなく、どこがどうよかったのか理由が分かるように書かせる。 - 手渡す際に意見交換ができるぐらいの時間を確保する。 - プレゼンの内容が伝わったかや、相手からの価値付けを確認させる。 - 多かった意見や印象に残った意見について自分が感じたことを書かせる。 - 作品のブラッシュアップを意識させ、次の制作につなげていく。 - 答えが出ない場合はデザインがなかったらどうなっていたかを考えさせる。 - ショップバッグにおけるデザインの働きを再度確認する。 - 題材(表現・鑑賞)から学び取ること整理し、各自の目標達成度を意識させる。	ア②③ (観察・発表・ワークシート) エ①② (ワークシート)

6 成果と課題

(1) 鑑賞について

美意識や価値観の形成を促すために、導入に美的体験として鑑賞を行ったあと、グループワークを行った。グループワークを通して他者の考えを聞き、自分では思いつかなかったようなことを考えていることを知り、新しい美意識や価値観を広げることができた。

今回のグループワークはそれぞれの考えの報告会でしかなかったので、自分たちなりの「いいショッピングバック」について考え価値をつくりだすように、話し合いから何らかの答えを出すような問いをつくりグループワークを活性化させ、鑑賞の授業の充実を図りたい。

(2) 表現について

導入で鑑賞やグループワークを行うことで生徒の創作意欲を高めることができた。周りの生徒がどんなことを考えているのかを知ることで「自分はこうしよう」という考えをまとめやすくなったのではないかと考える。また、制作のあとのプレゼンテーションを意識することで、作品とコンセプトとのつながりを考えさせ、作品としての説得力を高めることができた。

(3) 自己実現を図ることについて

グループワークやプレゼンテーションといったコミュニケーションを取り入れたことで生徒の美意識や価値観の形成を促すことができた。これにより本題材を通して生徒は「新たな発見をする」「個性的に自己を発揮する」「作品を完成させる」「創造したものが他者に認められる」などの自己実現を図ることができた。この経験の一つひとつが生徒のモチベーションを高め、主体的な学習態度をつくり、思考力・判断力・表現力を育む学習を深めることにつながると考える。

(4) 育成する資質や能力を明確にしたワークシートの作成と評価について

本題材では題材の進行に沿ったワークシートを作成して活用した。各欄に生徒が記入することにより、発想を膨らませたり、考えを深めたりすることをねらいとしている。

導入のワークシートでは題材に対しての興味関心を持たせたり、生徒の考えを補助したりするための物なので、課題に対して積極的に取り組んでいるかという美術への関心・意欲・態度を見取った。鑑賞のワークシートではデザインのよさや美しさ、作者の意図と表現の工夫を感じ取り、自分の感想を持つことができるか、生活や社会の中でのデザインの働きについて考えることができるかという鑑賞の能力を見取った。制作を振り返り自分の考えを整理したり、感想を書いたりする部分は評価には含まない。

以下は本題材で使用したワークシートの一部である。本題材の導入で、系統の違う四つのロゴタイプを提示し、それぞれがどんな商品を扱っていて、どんなイメージの店なのかを個人で考えさせた。次に、3人～4人のグループをつくりそれぞれが個人で考えたことを報告させる。お互いの考えを述べ合う中で、それぞれの感じ方や考え方の違いを意識させ、その違いを楽しむ視点をもたせた。

〈ロゴから店舗を想像する〉

下記のロゴからどんな店舗のものなのか想像してみよう。

A



○何屋？(扱っている商品)

○どんな店？(店のイメージ)

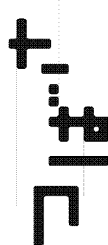
B



○何屋？(扱っている商品)

○どんな店？(店のイメージ)

C



○何屋？(扱っている商品)

○どんな店？(店のイメージ)

D



○何屋？(扱っている商品)

○どんな店？(店のイメージ)

年 組 番 氏名

〈グループワーク〉

グループで話し合い他の人の考えを知ろう。

	何屋？	どんな店？
A	○	○
	○	○
	○	○
B	○	○
	○	○
	○	○
C	○	○
	○	○
	○	○
D	○	○
	○	○
	○	○

年 組 番 氏名

Ⅵ 研究の成果

本研究は「教師が美意識や価値観の形成を促す指導を意図的・計画的に行うことにより、生徒が自己の表現に自信をもち、自己実現を図ることができる」と仮説を設定し、文献研究や検証授業を通して理論的、実践的な研究を進めてきた。その中で、高等学校の芸術美術における現状と課題に向き合い、生徒たちの思考力・判断力・表現力等を育む学習活動を活性化させるために、学習指導要領に対応した授業内容を考案し、学習評価の在り方について適切な方法を模索してきた。文献研究については、「研究の方法」に前述したように国立教育政策研究所による「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 芸術）」を参考に、評価の在り方を現状と照らし合わせて見直し、適正な学習評価や観点別評価の在り方について検討した。題材の全体を通して目標に沿った指導と評価を提案し、ワークシートの学習においても評価基準と照合する指導と評価の一体化を図った。さらに、実践的な検証のためには学習指導要領が定める目標や内容を確実に定着できることを目指そうと、学習指導要領に示されている学びを保証できる学習題材を設定し検証授業を通して生徒の成長を促した。生徒の美意識や価値観の形成を促すために、生徒の実態の把握、題材の選定、教材開発に始まり、学習指導案においては学習指導要領にある目標や内容との整合性を突き詰めてきた。学習指導案に位置付けた「主題に迫る具体的な3つの手立て」を実践的に指導し、学習指導と評価が適切に生徒の成長にはたらきかけたのかを見直し、よりよい評価の在り方を追求してきた。その結果、下記のような生徒の成長を促すことができた。

- ① 生徒が鑑賞により題材に興味をもつことができ、完成までの計画を立てることができた。
- ② 意欲的に学習に取り組み、作品を完成させ自分の表現に自信を持つことができた。
- ③ 失敗しても繰り返し挑戦し、自分にもできるという成功体験を味わうことができた。
- ④ 自分と他者の考えの相違点や共通点を認識し、価値観や美意識を多角的に受け入れ、考えを広げることができた。

授業内容については個々に課題があり今後も研究の余地があるが、検証授業を通して見られた生徒の変容や成長は、仮説で設定した「生徒が自己の表現に自信を持ち、自己実現を図ることができる」という理想の姿に近づく結果を得られたと考えている。

自己を発揮し、他者との考えの違いを意識させ、多様な個性を肯定的に捉えられるように指導したことで自己や他者の価値観、美意識に気付かせることができた。作品の良さや美しさ、作者の心情や意図、他者の考え等を理解することを通して、自己や他者と対峙し、自分にとって大切なことは何か、他者は何を大切にしているのかを感じ取り、考え方や視点をさらに広げることができた。自己を見つめ、自分の発想を基に主題を生成することで、自分の考えを確立する契機をもたらし、表現や鑑賞を発展的に学ぶことができるようになった。これらの結果は、生徒の美意識や価値観の形成を促し、生徒の自己実現を図る教育的な成果となりえたと考えられる。学習指導要領が求める生徒の思考力・判断力・表現力等を育む学習活動の活性化のために、芸術は今後も高等学校という教育現場で生徒の学習活動を発展させ、生徒たちの確かな学力の育成に貢献していける必要不可欠な教科であると確信している。

VII 今後の課題

1 学習評価の在り方に関する課題

観点別学習評価の重要性が指摘されているように、何ができて何ができなかったか、生徒の学習状況のよい点や課題のある点等が分りやすく示されていくことで、評価がその後の生徒の学習における課題解決に活かされる。評定のための評価は、生徒のための評価になるとは考えにくい。

生徒の能力を伸ばすための評価が適切に実施されなければならないということは言うまでもない。

今回の研究を通して題材の内容やワークシートの記述部分が設定した評価規準と常に対応するものであり、美術科の目標や内容と照らし合わせてどの学習をどのように評価すべきか、適切な評価となっているか、指導者が照合すべき点が数多くあるということを改めて考えさせられた。

ワークシートについては、評価の材料となる重要な学習教材ではあるが、育成する資質や能力を生徒が発揮できるようなつくりが求められる。したがって、設問によっては、評価の対象とならないものも出てくる。学習を進める過程で、ワークシート内の発問が学習目標や評価規準と合っているか、ワークシートが生徒の意見や考えを引き出す工夫がなされているか、十分な吟味の上で作成することが充実した学習活動につながることを実感した。

生徒の学習の実現状況を把握し、次の学習への意欲を高めることにつながるよう指導過程や評価方法を見直すことが効果的な指導となると考えられる。指導目標が曖昧であることは、評価も曖昧になってしまうため、学習の指導目標を点検し、題材を通して育成する資質や能力を明確にして学習を評価していく必要がある。今後も学習評価の在り方に関しては、その内容や方法を含めて研究すべき事項であると考えている。

2 美意識や価値観の形成に関する課題

美意識や価値観の形成は、芸術（美術）のみならず生徒個々の人生において、特に人生の通過点や分岐点においてはより一層、自分の考えを確立し豊かな人間性を育むための大きな役割を果たしているものである。他者とのかかわり、社会とのかかわりがあるからこそ、多様な美意識や価値観に触れ、自ら思考し判断する中で自分の見方や考え方を広げていく。生徒の中で形成されていく美意識や価値観は、表現や鑑賞の学習において主題の生成や自己の考えの根源的なものとなって個々の生徒の成長につながるものであると授業を通して感じた。題材を設定する上で、学習場面のどの部分でこの目標を実現させていくか、それは適切なアプローチの方法であるのか、生徒の成長のためになったのか、指導者は指導と評価の在り方を振り返り、見直し、改善することが教育者としての義務であることと感じた。

平成25年度 教育研究員名簿

高等学校・芸術（美術）

学 校 名	課 程	職 名	氏 名
都立蒲田高等学校	全日制	教諭	◎ 村上 千恵
都立国分寺高等学校	全日制	教諭	大竹 敬子
都立つばさ総合高等学校	全日制	教諭	山口 良太

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課 指 導 主 事 松永 かおり
西部学校経営支援センター支所 学校経営支援主事 明石 典子

平成25年度
教育研究員研究報告書

高等学校・芸術（美術）

東京都教育委員会印刷物登録

（平成25年度第193号

平成26年 3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課

所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号

電話番号 (03) 5320-6836

印刷会社 昭和商事株式会社